



|              |   |
|--------------|---|
| Title        | 花屋玉栄詠『源氏物語巻名和歌』（解題と翻刻）  |
| Author(s)    | 伊井, 春樹  |
| Citation     | 詞林. 1989, 5, p. 30-33   |
| Version Type | VoR   |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/67268">https://doi.org/10.18910/67268</a> |
| rights       |   |
| Note         |   |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 花屋玉栄詠『源氏物語巻名和歌』（解題と翻刻）

伊井 春樹

玉栄は、『顯伝明名録』に「玉栄 南都比丘尼慶福院近衛植家公息女〔尼〕」とあり、『花屋抄』を文禄三年（一五九四）の六十九歳に、『玉栄集』を慶長七年（一六〇二）の七十七歳に執筆したことなどは、その『源氏物語』研究の様相とともにすでに述べたことがある（『源語研究資料集』解題、碧冲洞叢書第八十七輯）。父の種家をはじめ、近衛家は『源氏物語』と深いかかわりがあり、そういう影響のもとについたことは否めないが、また女性の立場から独自の解釈もしており、さらにスペンサー・コレクションに藏される『源氏物語絵巻』六巻は玉栄による天文二十三年（一五五四）の作とされる（マガレット・チャイルズ「スペンサー・コレクション藏『源氏物語絵巻』」「国語圖文」昭和五十六年七月）。これまで玉栄の動向は晩年しか明らかでなかったが、この絵巻の存在によって若干二十九歳ですでに『源氏物語』とかかわりがあつたことが知られるようになつた。しかも、五十四巻の絵画化という絵との関係も

るわけで、これは当時の絵巻や色紙画帖の場面の問題ともからみ、興味は尽きない。

ここで、もう一つ玉栄の作品を紹介し、彼女の業績に加えたと思つ。陽明文庫の文書（七六五七四）に納められている、素紙に書写されて装丁などされないまま巻かれた『源氏物語巻名和歌』（仮題）で、これには五十四帖五十四首の巻名歌が見える。一首三行書き、頭部に巻序が記される。巻末には、すぢなき事共にて心にまかせまいらせ候て候へども、書つ

つしてまいらせ候

天正十七菊月十九日 花屋玉栄六十四才

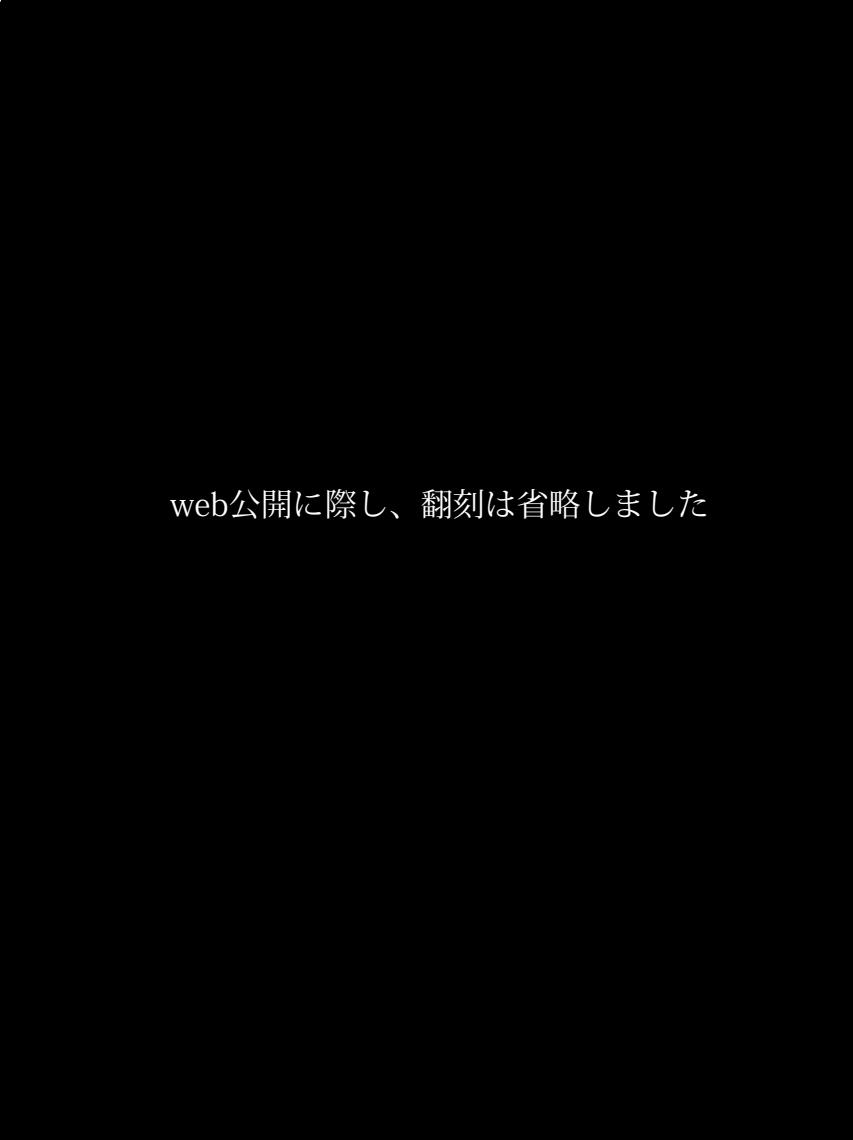
とあり、天正十七年（一五八九）九月十九日に六十四歳の玉栄が、人の求めにより書写したことが知られる。すると、この巻名歌を詠んだのは、それ以前であろうか。

永青文庫蔵『古筆手鑑』に「慶福院殿玉栄」として、  
篝火のほかけほのかにゆふやみの琴をまくらのよひのうた

、ね

野分ふく朝に花の色／＼をおもひくらへし秋の夕霧  
と一首一行書きによる「一首の歌切が押されており、これは『源  
氏物語』の「篝火」と「野分」の巻名歌であるとわかる。しか  
も、本稿に翻刻した二巻と、漢字かなづかいは異なるものの、  
筆跡と歌の内容はまったく一致する。これなども、依頼されて  
書写した巻名歌が、切断されて手鑑に押されるにいたつたので  
あろう。ただ、今のところ玉栄の巻名歌断簡は、右の一葉しか  
見いだしていない。

web公開に際し、  
翻刻は省略しました



web公開に際し、翻刻は省略しました

web公開に際し、翻刻は省略しました